

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
中学校	加太中学校	神崎 信彦
学校所在地		
〒 640 - 0103 和歌山市加太2692-1 tel 073(459)0004 fax 073(459)2655		
担当者名		担当教科
吉川 豊		
〔学校の概要〕 本校は、和歌山県和歌山市の西北端に位置し、世帯数は約1300世帯、人口が約2800人の加太地区に所在する。加太地区は海と山に囲まれた静かな環境にあり、漁業と観光業が盛んである。全校生徒数は大幅に減少しており43人で、和歌山市では最小規模校である。クラブ数も少ないが、活動は盛んに行われている。全校生徒のほとんどが何らかのクラブに入部していて、非常に活動的である。また、地域と学校とのつながりが深く、学校教育に対する関心と期待が大きい地域である。		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
1学年 1年生 10名	10名（職員 4名）	高野山（公民館・奥之院）
実践研究テーマ		
高野山について学び、そのよさを発信しよう。		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	高野山学習	
〔キーワード〕 世界遺産学習		
〔単元目標〕 (1) 地元和歌山の名所である高野山の歴史、文化について調べ、理解を深めようとする。 (2) 調べた内容を伝え合う活動を通して高野山の素晴らしさやよさを感じようとする。（感じる力） (3) ビデオの鑑賞により情報を集め、必要な情報を取捨選択して、目的に応じた資料の収集整理をしようとする。（実現する力） (4) 高野山での現地学習として、「世界遺産講座」の受講・ビデオ鑑賞またフィールドワークを通してより实际的、専門的な知識を得ようとする。また、その情報をまとめようとする。 (5) 調べたことをプレゼンテーションして発信する活動を通して、企画力、構想力を高め、情報の受け手を意識した表現をしようとする		
〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕 全体 12 時間 （「 高野山学習 」 5 時間 ）		
〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター…世界遺産入門 次世代育成事業（現地学習）		

実践校に関する事項			
〔単元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	高野山について調べよう	高野山について自分が知っていることを確認する。 インターネットや書籍を通して調べる。	ワークシート ワークシート
2	調べたことを発表しよう	学級内で調べたことを発表する。 他者の発表内容をまとめる。	ワークシート
3	高野山についてのビデオ学習 NHK「プラタモリ」のビデオを観る ・9/16（土）放送「高野山と空海」 ・9/23（土）放送「高野山の町」	ビデオ鑑賞を通して高野山についての知識をより深める。	鑑賞態度
4	現地学習	世界遺産講座を受講 「紀伊山地と熊野古道」についてのビデオ鑑賞 高野山でのフィールドワーク。	観察
5	まとめよう	学んだことをワークシートにまとめ、 パワーポイントでプレゼンテーションする。	ワークシート 発表態度
〔単元学習の成果と課題〕			
<p>成果 高野山学習の実践を通して、生徒に主体的に学習課題を設定し、学んだ内容をまとめる態度が身に付いてきた。ここでは、総合的な学習の時間を飛躍的に高めていくことができた。</p> <p>課題 1つ1つの学習が完結して進んでいたもので、すべての学習において、次の学習へのつながりを持たせることができれば活動全体にまとまりを作ることができた。生徒の学習の様子も見ながら改良や工夫を加え、よりよいものにしていきたい。指導者は、学習題材を見付け出し、追究可能な単元にしていくことが求められている。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>世界遺産教育は、教科教育において基礎・基本を学び、そして、世界遺産を通じて、世界を身近に感じ、世界の遠いところだけでなく、自分の身近にも大切にしたい、未来の世代にも残したいものを考える。その学習の中で、興味の持ったこと（人権、共生、環境、平和）などのテーマを見つけ広く、深い学習をしていくことにある。</p> <p>(1) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」について、調べ学習（聞き取り、図書、インターネット等）を通して興味関心を持てるようになる。</p> <p>(2) 高野山奥之院のことで課題解決、コミュニケーション能力の方法を身に付けることができる。</p> <p>(3) 現地学習を通して世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」についての興味関心を高めるとともに、世界遺産学習の素地を養うことができる。</p> <p>(4) 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」で学習したことをもとに、外国の世界遺産に関心を持ち課題設定ができる。</p> <p>(5) 課題について学習したことをまとめ、自分の考えを聞き手を意識して発信することができる。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>これからの国際社会を形成する主体者として子どもたちの資質を高めるためには、世界遺産を通して国際協調の精神を培う手立てとなる授業設計が必要である。例えば、世界遺産を保全するために、国境を越えて活躍する人々の姿等に触れることで、現代社会が抱える諸課題に、自ら行動できる市民意識の育成である。</p> <p>将来の社会の主体者である子どもたちが、世界遺産学習を通してE S Dの概念に触れることで地球の未来に目を向けることができることは意義が大きいといえる。</p>			

様式 2

平成29年度 「次世代育成事業」における学習記録

[概要報告書

学習記録・活動写真]



生徒 高野山現地学習の感想

○今回、高野山に行ったのは初めてではなく2回目だったので知っているところもありました。でも、知らないところがたくさんありました。今回の学習で初めて、約56億7千万年後に弥勒菩薩が下りてきてお経を唱えるのを聞くために様々な大名達が供養塔を建てることや、五輪塔は下から地水火風空を表すことが知れて、また一段とおもしろくなりました。初めて入った奥之院の地下室は、空海の本物の骨が納骨してある神聖な場所でたくさんの灯籠があって幻想的でした。和歌山には高野山などのいい所があるということをもみんなに伝えたいと思いました。

○ぼくは初めて高野山に行きました。僕が一番面白くて多くのことを学べた場所は奥之院です。小学生のころ歴史の時間で習った人の墓がたくさんあってびっくりしました。供養塔の門などに描かれている家紋というものも今回初めて知って、とてもおもしろかったです。高野山で学んだこと、世界遺産がどれだけ大切かということ、今後自分たちの後輩やまわりの人々に伝えていきたいと思います。

○学んだことは、灯ろうが右と左に分けてあり、御廟に行く方向を向いて左側は月で、右側は太陽を表しているということや、徳川家の人々の供養塔の形はほかの人と異なることなどです。おもしろかったと思ったのは、五輪塔の「火」の部分の作りが時代によって違うことです。知らない話が聞けてよかったと思います。また家族と行くときに説明できればいいなと思います。